第 12 回　医療の質・安全学会　in 幕張　11/25～26

閉鎖式気管吸引手技に関する当院での意識調査
～呼吸サポートチーム（RST）による閉鎖式気管吸引スキルチェック実施後のアンケート調査からの考察～

○谷内耕平[1)]　三澤賢治[1)]　金子秀夫[1)]　岡本梓[1)]　鈴木充[1)]
1）社会医療法人財団　慈泉会　相澤病院　RST

【目的】
呼吸サポートチーム（以下 RST）による閉鎖式気管吸引（以下閉鎖吸引）スキルチェック実施後のアンケート調査から、閉鎖吸引における当院での問題点を明らかにし、今後の教育的スキルチェックとしての方法の再考を図る。

【対象と方法】
人工呼吸器を取り扱う急性期の 4 病棟 85 名の看護師に対し RST による病棟訪問型閉鎖吸引スキルチェックを実施後にアンケート調査を施行。
看護師年数を 3 群（1～5 年、6～10 年、11 年以上）に分け、設問毎にクロス集計表にまとめた。解析は$\chi 2$独立性の検定を適用し、有意水準は 0.05 未満とした。なお、対象者には書面にて説明し、同意を得た上で無記名にて調査を行った。

【結果】
アンケート回答数は 77 名で回収率 90.1%。看護師年数は、1～5 年が 27 名、6～10 年が 23 名、11 年以上が 27 名で、平均 9.2 年（±6.4）あった。
受講歴に関して全体の 52%が「1 年以上スキルチェック受講なし」と回答し、年数別では 1～5 年 30%、6～10 年 61%、11 年以上 67%で年数を重ねるほど優位に多かった（P＝0.02）。
また、全体の 12%が「受講経験なし」で、中途採用者が多い傾向にあった。
開放式気管吸引（以下開放吸引）実施に関して、全体の 39%で「開放吸引を実施することがある」と回答し、年数別では 1～5 年 26%、6～10 年 43%、11 年以上 52%で年数毎増加傾向にあったが、有意差は認めなかった（P＝0.08）。また、日常的な吸引実施頻度が多い人ほど開放吸引を実施する傾向にあり、理由として「閉鎖吸引では痰が取り切れない」が最も多かった。
スキルチェック後に「今後も開放吸引を行う可能性がある」との回答が全体の 29%で、実施前に比べ減少傾向となったが、11 年以上での意識変化は乏しかった。

【考察】
閉鎖吸引スキルチェックは新卒入職時研修で定期開催している。今回の結果から特に経験年数の長い看護師や中途採用看護師のスキルが統一されていないことが予測され、行動変容は年数が長くなるほど難しくなる傾向が明らかとなった。Witmer らは閉鎖吸引と開放吸引で吸引量に差はないと報告しており、開放吸引を実施する機会については更に詳細を聴取し、看護師年数や経験毎に指導内容を変化させるなど対象者の特性を理解し指導を行うことが今後は有効と思われた。